



ドイツの高校生 それぞれの進路と青春謳歌



ただいま明は日本では高校3年生、ドイツでは高校4年生で、6月に卒業です。ドイツの高校生は日本と違って、大学受験のプレッシャーもなく楽しそうです。

明は10月、修学旅行で1週間イタリアに出かけました。夜行バス片道20時間。自由時間が多いので友達とのんびりし、ピザを食べ、海で泳ぎ、遺跡を見学し、サンマリノにも行きました。

帰ってきたら翌週から2週間の秋休み。前半は小学校時代の友だちのオランダ在住のおばさん宅へ。彼は昔から憧れていたBMWのオープンカーを、免許を取る前から中古で探してゲット。常に成績トップで学級委員長をするなどしっかり者だったのですが、ほしいものを着実に手に入れる行動力に脱帽です。明は免許がないので、その子の運転でおばさん宅を拠点にオランダとベルギーの都市を回りました。写真はその時のものです。

後半は別の友だちとノルウェーへ。彼のかつてのホストファミリー宅に滞在させてもらいました。氷の張った湖で寒中水泳をしたり、オーロラを見たり。卒業前の秋に5カ国訪問とは、自分の高校時代との違いに唖然とします。

11月には卒業試験の前哨戦となる試験がありました。主科目を3つ、副主科目を2つ選択するのですが、記述式で試験時間が長く、数学330分、化学300分、英語300分、政治学255分、フランス語90分でした。

休憩はなく、お腹がすいたら弁当やお菓子を食べて、トイレも勝手に行きます。テストの前に先生が携帯を集めるので、こっそりトイレで検索することはできません。いずれにせよ自分の考えをひたすら書くので、検索しても意味がない。体力と集中力の勝負です。

4月からは学校に行かず、自宅学習となります。卒業前2年間の成績が6割、卒業試験が4割で換算され、卒業時(大学入学資格=アビトゥア)の成績が決まります。アビトゥアがとれたら7月半ばまでに希望大学に入学申

請し、たいがいは複数校から許可が出るので、8月に自分でどこにするか決めます。10月から新学期です。

大学に行かない子は高校1年生で卒業し、職業訓練をしている企業に就職して、少額ですが給与をもらいながら勉強と現場実習を3年間します。ドイツは資格社会なので職業資格がアビトゥアがなければ、将来的にキャリアを築くのは難しくなります。

企業で働きつつ大学に通わせてもらう制度もあり、同級生のUは3社で内定を取りました。

南ドイツ大手の銀行は初任給1700ユーロ(30万円)、IBMも1700ユーロ、宇宙関係のスタートアップ会社は1300ユーロ(23万円)。給料の高さだけでなく転職のしやすさなどで迷っているようですが、よく考えて一番したい道を進んでほしいものです。

小学校時代の友人Mは、飛び級して17歳で高校を卒業。今は「ボランティアの一年」という制度を利用して物理関係のレーザーセンターに所属しています。フルタイムで労働していますが、報酬はお小遣い程度の450ユーロ(8万円)。こうして毎年何万人もの若者が、病院や学校、福祉施設、研究所などでボランティアをしています。

進路を決める前に、興味のある分野やふだん縁のない分野で社会と関わることによって、自分の適正や社会について知ることができます。

Mによると、同級生の中にはすぐ大学に行った子もいれば、1年遅らせて働きながら世界旅行をする子も多いそうで、明もすぐ進学するか、遅らせてアルバイトして旅行するか思案中。私

は「旅行費用は出さないから、自分で考えてやってね」と言ってあります。もう18歳だから親の役割も終わり。あとは本人の責任です。

1つ年上のKは昨年ミュンヘン工科大学情報学部に入學しました。アビトゥアの成績さえよければ人数制限なく誰でも入れるため、昨年は1400人だったそう。しかし入學して数ヶ月で、できない子は淘汰され、合わないと思った子はどんどんやめていきます。転部や転学しやすいので、みな見切りをつけるのも早く、軌道修正がしやすいしくみになっています。

ドイツも18歳で成人ですが、成人となるのはとても重要なこと。名実ともに周囲の態度も本人の自覚も変わります。日本だと高校生だしあまり変わりませんが、ドイツでは役所も学校も周囲も成人として扱うようになります。

もちろんそんなドイツの若者にも問題はあります。おとし合法化された大麻も問題となっています。先日、大麻について保護者向けのオンライン講演会がありました。大麻は18歳から、たばこお酒は16歳から許されているため、明によると構内は禁煙だけど先生が黙認している部屋があり、タバコや大麻でもくもくしていると。

ディスコで朝まで騒いだり、酔いつぶれるまで飲む子も少なからずいて、タバコの禁断症状の出ている子もいるとか。講演会では「親として子どもをよく観察し、怒ったりせずにその子の気持ちを聞くのが重要」と聞きました。

明に「悩みある?」と気くと、少し考えてから「うーん、ないと思う」。親に悩みを打ち明けたりしないだろうけど、勉強は楽チンだし、最近彼女もできたし、友だちとジムに行ったり楽しそう。本当に悩みはなさそうです。「人生で一番楽しい時期かもね」というと、「そうかもね」という返事。

受験でエネルギーを取られないから余力があり、のちに好きなことが見つかった時に打ち込めるのではないかと思いました。私もこういう高校生活を送りたかったなと思います。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂